

C-29 古代権衡法から現代製図法までの歴史的考察.
武庫川女大家政 ○真鍋信子. 藤田怜子.

目的 裁断方法には平面裁断法と立体裁断法とがあるが、本研究はその中の平面製図法 (drafting system) について歴史的変遷の研究をおこなった。現在のように発達した平面製図法についての報文は多く、製図法は日本に、存在する特殊なものである。しかし洋装自体が西洋から導入されたものであり、導入された時点からの研究、作図方法の研究も多いが、本研究はそれらの研究をひと続きにして、平面製図法のほぼ原点の流れを追求したものである。

方法 古代権衡法の遺物は現在皆無といってよいほど少ない。しかし、彫像・建築物などエジプト時代から現在に至るまでの製図法に関する事項を抽出し、解剖学・美術・建築の方面から裏付け考察をした。

結果 ①古代エジプト人の権衡法 (Egyptian canon) は、第三指長 $\times 19 =$ 身長 (女性の場合は18) という指数である。そして当時の型紙は、粗削りの石で作られていた。またピラミッド作成の折、腕尺 (キュービット) が使われ、これが史上初の物差でありヤードの基礎となったと考えられる。②本格的に製図法が組織化され誕生したのは19世紀であるが、その温床となったのはルネッサンス期の Leonardo da Vinci (1452~1519) の出現にある。彼は、解剖学の父・美術解剖学の創始者である。③日本に洋装が導入されたのは、16世紀と19世紀である。16世紀は、南蛮服としてである。19世紀以後、第1次世界大戦前までは、平面と立体を総合させた方法を取り、第2次世界大戦後は諸外国の製図法を参考として、現在の製図法となったと考えられる。